

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	コミュニティ政策
科目名 ※	現代社会論	単位数 ※	2
開講学期※	2022年度 後学期	曜日・時限 ※	火曜1限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	15-201
学修分野			
授業目的 ※	前期授業「社会学概論」で学んだ社会学理論を踏まえて、コミュニティを考えるうえで大切な要件である、戦後の日本社会の全体的な持続と変動を理解する力をもつことを目指す。		
到達目標	具体的な現象を抽象的な概念を用いて把握することと、抽象的な概念を具体的な現象にあてはめることの往復的思考ができる力を身につける。たとえば、日常生活のなかで目にするもののある「暴力」という現象を、複数の社会的概念で把握できるようになること。「権力」や「支配」といった概念であったり、あるいは「演技」という概念の適用も可能かもしれない。他方、「アノミー」「スティグマ」といった社会的概念をもって、日常生活の様々な現象を拾い上げるという方向での思考力をも身につけたい。		
授業内容 授業形態 ※	この授業は、前学期の「社会学概論」を受け継いで、現代社会について社会的に理解することをめざす内容である。 主として日本の戦後から高度成長期以降の社会、さらには現在進行形の社会を総体として把握するための理論および現象を講義形式により講述することを目的とする。前学期に学習した古典的な社会学理論につづき、20世紀の社会学理論のいくつかを紹介するとともに、大衆社会論、産業社会論、管理社会論、情報社会論等を扱い、社会現象として犯罪・非行、自殺、地域社会の変化、若者文化、高度情報化、セクシュアリティ、人権問題等について、事例を示しながら社会的な分析を行う。 授業形態は新型コロナウイルス感染の状況に応じて変化する可能性があるため2つの授業形態別に記す。 【対面授業】 基本的には講義形式になるが、アクティブラーニングとして授業の知識を随時確認するため、グループワークやペアワークを実施する。また、授業中に発言を求める。 【遠隔授業】 配信授業音声等に関して学生の質問や意見を求める。それら意見及び教員の見解を受講生全員で共有することで、双方向型授業(アクティブラーニング)とする。		
評価方法 ※	事前事後学習と試験によって評価する。		
評価基準	レポート（事前事後学習）20点、試験80点。		
テキスト	ISBN：9784762016721, 「テキスト社会学」, 星野潔：杉浦郁子, 学文社, 2007年		

注意事項	事前事後学習を欠かさないこと。
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、 「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名 ※	ビジネスライフ学科
科目名 ※	観光ビジネスⅡ	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	火曜 2時限
キャンパス※	千葉経済大学短期大学部	教室※	402
学修分野	卒業認定・学位授与の方針中のキャリアアップステージに位置付けられます。		
授業目的 ※	観光ビジネスⅠで学んだ観光ビジネスの理解を踏まえて、観光ビジネス関連の人材として必要なコミュニケーション能力やおもてなしマインドなどを学び、観光ビジネスだけでなく社会人として役に立つ人間力を高めることを目指します。		
到達目標	①インバウンドの取組み事例を研究することで、インバウンドの効果を理解する。 ②観光関連人材として必要なおもてなしマインドを高めることで、コミュニケーション能力の向上を図る。		
授業内容 授業形態 ※	以下の内容で進める予定です。 第1回 インバウンド研究（1） 第2回 インバウンド研究（2） 第3回 日帰り旅行企画（1） 第4回 日帰り旅行企画（2） 第5回 日帰り旅行企画（3） 第6回 おもてなし英会話（1） 第7回 おもてなし英会話（2） 第8回 おもてなし英会話（3） 第9回 おもてなし英会話（4） 第10回 おもてなし英会話（5） 第11回 文化と観光（1） 第12回 文化と観光（2） 第13回 文化と観光（3） 第14回 文化と観光（4） 第15回 まとめ ＊ゲストスピーカーによる講義は日程変更になることもあります。		
評価方法 ※	レポート（40％）、実習（30％）、授業への取組み能動性（30％）を総合的に評価します。		
評価基準			
テキスト	必要に応じて資料等を配布します。		

注意事項	(予習) 次回の予告に基づき、資料や新聞を読む。 (復習) 毎日15～20分程度、おもてなし英会話で学んだことを声に出して練習してください。 毎回、予習・復習を併せて240分以上してください。
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/SyllabusGaku/Syllabus.asp?cdga=2&nendo=2022&cdbl=1916

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	総合福祉 コミュニティ政策
科目名 ※	財政学	単位数 ※	2
開講学期※	2022年度 後学期	曜日・時限 ※	火曜2限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	5-201
学修分野			
授業目的 ※	財政の理論、制度・仕組みを理解し、財政が抱える問題について考察する。		
到達目標	日本の財政の現状を把握し、その問題点を自分なりに解釈し、解決策を自発的に考えられるようになる。		
授業内容 授業形態 ※	財政の理論、制度・仕組みについて解説し、財政が抱える問題やその解決について考察する。日本財政の現状を定量的な理解を促す。 授業形態は新型コロナウイルス感染の状況に応じて変化する可能性があるため2つの授業形態別に記す。 【対面授業】 講義形式。適宜質問を投げかけることで受講生の主体的な学びを促し、アクティブラーニングを実践する。 【遠隔授業】 配信授業資料に関して学生の質問や意見を求め、それらをフィードバックとともに後日共有し、アクティブラーニングを実践する。		
評価方法 ※	リアクションペーパー、課題レポート、授業内試験の成績で総合評価する。		
評価基準	リアクションペーパーおよびレポート：60点、授業内試験：40点		
テキスト	ISBN：9784502175312, 「財政学」(ベーシック+)，山重慎二，中央経済社(発売：中央経済グループパブ)，2016年		
注意事項	「経済学概論A」または「経済学概論B」の単位を修得済みであることが望ましい。		
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	コミュニティ政策
科目名 ※	地域経済論	単位数 ※	2
開講学期※	2022年度 後学期	曜日・時限 ※	火曜2限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	5-101
学修分野			
授業目的 ※	地域経済学・都市経済学の考え方を学ぶ。そうした基本概念の理解のもと、地域で起きている問題に対して対応策を示すことができる。		
到達目標	地域経済学・都市経済学の基本的な考え方を学ぶ。その理解を元に、地域で起きている問題について、対応策を考えられるようにする。 授業内試験では上記の点について問う。		
授業内容 授業形態 ※	教科書に基づきながら、地域経済学・都市経済学の基本的な考え方を学ぶ。地域で起きている問題を解き明かし、対応策を考えられるようになることを目指す。その際にはアクティブラーニングの手法を用いる。 学生の理解に応じて進捗は変わる。 授業形態は新型コロナウイルス感染の状況に応じて変化する可能性があるため2つの授業形態別に記す。 【遠隔授業】 配信授業動画等に関して学生の質問や意見を求める。それら意見及び教員の見解を受講生全員で共有することで、双方向型授業(アクティブラーニング)とする。配布プリントを元に政策評価の考え方を理解する。複雑な演算においては各自の電卓を利用する。各自、ノートを用意し、必要な内容を書き留めること。 【対面授業】 基本的には講義形式の授業を行うが、アクティブラーニングの手法を活用する。一回目の授業で少人数のグループを作る。授業の中で設定する課題に対して、グループワークを行う。時には発表も求める。配布プリントを元に政策評価の考え方を理解する。複雑な演算においては各自の電卓を利用する。各自、ノートを用意し、必要な内容を書き留めること。		
評価方法 ※	レポート・発表、授業内試験により総合的に評価する。		
評価基準	レポート・発表（60点）、授業内試験（40点）により評価する。		
テキスト	ISBN：9784641150096, 「都市・地域経済学への招待状」（有斐閣ストゥディア），佐藤泰裕，有斐閣，2014年		
注意事項	予習・復習を欠かさないこと。試験規定に基づく。		
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp		

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	淑徳大学	学部・学科名 ※	総合福祉 コミュニティ政策
科目名 ※	労働法	単位数 ※	2
開講学期※	2022年度 後学期	曜日・時限 ※	火曜2限
キャンパス※	千葉キャンパス	教室※	15-201
学修分野			
授業目的 ※	労働法は「人生」に関わる法分野であるといつてよいでしょう。なぜなら、私たちの人生の大部分は職業生活であり、人が生きていく中で重要な部分を占めているからです。近時の新型コロナウイルス感染症の拡大に伴って、私たちの雇用・労働は大きく変化し始めてきています。 例えば、あなたが次のようなケースに遭遇した場合、どのように考えますか？ 「淑徳大学近くの居酒屋で働くあなたが、お客から生ビール中ジョッキ（生中）の注文を受け、ジョッキにビールを注ごうとしたところ、ビールサーバーを強くひっぱりすぎてしまい、壊してしまった。怒った店長はビールサーバーの修理にかかった費用10万円はあなたのバイト代から弁償してもらおうと言い張ってしまい、結局、あなたはその月のバイト代をもらうことができなかった。そんなあなたは下宿先の家賃も払えず、食事もうろくに食べられなくなってしまった。」 「店長に従わないとまた怒られてしまう・・・。」と思ったあなたを救済し、職業生活をよりよく過ごしていくために規律する法が労働法です。 本講義では、将来、社会人として羽ばたく（羽ばたいている）皆さんがイメージしやすいよう、人が求職をしてから退職（あるいは何らかの理由で離職）するまでを各場面（シーン）ごとに構成しています。皆さんにとって「働く」ことに関する一連の流れが分かるので、皆さんの頭の中でシュミレーション（疑似体験）しながら、労働法の基礎知識(条文の適切な理解、判例の考え方)を習得してもらいます。		
到達目標	到達目標は、以下の通りです。 第一に受講者が基本的な労働法の知識（条文の正確な理解、解釈、裁判例の趨勢等）を修得する。 第二に実社会へ飛び立つ皆さんが遭遇するであろう（遭遇しないほうが良いのですが・・・）現実の労働トラブルを解決でき、また労働トラブルの発生を未然に予防する能力を修得する。		

授業内容	なぜ私たちは何らかの職に就いて働かなければならないのでしょうか。それは、人が生きていくに足りる収入を得なければ、生活することができないからだ、と多くの人々は考えていると思います。もっとも、新型コロナウイルス感染症に伴う失業率の高まりや、延期された東京オリンピック・パラリンピックの開催の是非に関する情報を耳にすれば、収入に満足していないとしても、ギャンブルや株式投資等で大稼ぎしない限り、人は働かざるを得ない状況にあるともいえます。 それでは、生活の糧になっている「収入」の源は、会社の経営者たる使用者にあり、そうになると絶対的に労働者よりも強いことになってしまいます。どんな業務命令でも使用者の言うことを聞かねばならないのでしょうか。生活のために収入を得るのであれば、何が何でも使用者の言うことを聞かなければならないのでしょうか。 そうした問題を規整する法はいかなる役割を果たすべきなのでしょう。そもそも、会社は誰のものなのでしょう。 本講義では、「労働」という事象にスポットを当てつつ、労働法の基礎知識の習得に留まらず、法規整の役割・あり方についても検討します。特に2019年4月より施行されている「働き方改革関連法」や新型コロナウイルス感染症によって働き方が変化していること（テレワークや在宅勤務の増加等）などを踏まえて講義を進めます。 さらに、アクティブラーニングの一環として、受講生が職業安定所（ハローワーク）や労働基準監督署、労働局等に足を運び、フィールドワーク（資料収集、ヒアリング等）を行い、労働法をめぐる「実務」（現実）を知ってもらいます。 なお、労働法を学ぶ前提として、特に私法（民法（契約法）等）の基礎知識は不可欠ですので、こうした知識のブラッシュアップも同時に行います。
-------------	---

授業形態 ※	授業形態は新型コロナウイルス感染の状況に応じて変化する可能性があるため授業形態別に記す。 新型コロナウイルス感染症の状況に応じて授業形態については変更があり得ますが、ケースメソッドや受講生間のディスカッション等を適宜行う予定です。なお、弁護士や社会保険労務士等のゲスト講師を招聘する場合があります。 【遠隔授業】 配信授業動画等に関して学生の質問や意見を求め、そうした意見及び教員の見解を受講生全員で共有することにより、双方向型の演習(アクティブラーニング)とします。 【対面授業】 基本的には学内での演習形式の授業を行います。その際はアクティブラーニングの手法を活用します。学生から質問、意見を求めたり、学生によるプレゼンテーションの機会を設けます。 いずれの授業形態によっても、上記の目標を達成するため、各講義において場面（シーン）を設定し、各回で取り上げるテーマについて、労使紛争の背景事情、問題の状況を的確に把握し、テーマ課題の基本的問題を中心にして講義スタイルにて授業を進めます。なお、受講者は、指定テキストの該当頁を熟読し、予習する必要がある、適宜、ミニレポート、疑問メモ等を作成してもらいます。 また、適宜、ソクラテスメソッドや受講生同士のディスカッション等を行い、各受講生の法的思考力を向上させます。 アクティブラーニング（主体的・対話的で深い学び）として、フィールドワーク（判例検索をはじめとする資料収集、ヒアリング等）を実施した上で、各講義内容に関連して、「残業」「年休」「派遣切り」「ブラックバイト」等をテーマにして、 Problem Based Learning（課題解決型学習）も行う予定です。 なお、キャリア支援センター及び厚生労働省、千葉労働局、労働組合等の協力を得て、適宜、ゲスト講師との講義進行も行う予定です。 【実務経験のある教員による授業科目】 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。詳細は以下をご参照ください。 国家公務員として、労働者を保護する立法に係る政策企画立案等に従事した経験を踏まえ、各労働法規に関する実務上の法的論点を解明し、今後の労働法政策のあり方等を講じている。 独立行政法人職員として、裁判外紛争解決手続に係る法的紛争解決実務等に従事した経験を踏まえ、民事事件（労働事件）に関する紛争処理手続上の法的論点等を講じている。 ■外部講師を招聘する授業回について ※外部講師（ゲストスピーカー）は、90分授業の一部分のみを担当します。 ※外部講師招聘日は外部講師の都合により変更となる可能性があります。
評価方法 ※	試験、レポート、小テスト、平常点(事前事後学習の実施状況、リアクションペーパーの提出、授業内での発言等)を総合的に考慮して評価します。 試験については、論述式とし、本講義項目に関連するテーマを2問出題する予定です。 レポートについては、受講生が関心を持っているテーマについて、2,500～5,000字以内で作成してもらいます（なお、レポート提出については、原則として電子メールによることにします）。

評価基準	労働法の制度・概念の正確な理解、要件・効果の的確な把握、推論のための基本的手法の修得ができているかを評価基準とします。 具体的な評価の配分としては、試験については50点、レポートについては20点、小テストについては20点、平常点（発言等）については10点とします。 なお、平常点には各講義の出席率は考慮しません(いうまでもなく、単位認定の前提となります)。
テキスト	ISBN:9784324105269, 「よくわかる働き方改革：人事労務はこう変わる」, 日野勝吾：結城康博, ぎょうせい, 2018年7月
注意事項	法律学概論や債権法等、他の法律系科目を受講することが望ましい。
授業シラバス	「ログイン画面へ」のボタンをクリックし、「ゲストユーザー」の文字をクリック、「シラバス照会」をクリックするとシラバス検索ができます。 https://passport-web.soc.shukutoku.ac.jp/up/faces/up/co/Com02401A.jsp

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学短期大学部	学部・学科名 ※	ビジネスライフ学科	
科目名 ※	自然科学への招待B		単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	火曜 4 時限	
キャンパス※	千葉経済大学短期大学部		教室※	401
学修分野	卒業認定・学位授与の方針中のベースステージに位置づけられます。			
授業目的 ※	「地球・太陽系・星・銀河・宇宙・・・（マクロの世界）」 前期の「自然科学への招待A」に引き続き、理科（物理・化学・地学）的な眼で自然界を見ます。「自然科学への招待B」では、地球・月・太陽系・星・銀河・宇宙といった「大きな（マクロ）世界」に目を向けていきます。スライドや動画を使って、できるだけわかりやすく概念を伝えるような説明を行うつもりです。また毎月の星座や天文現象なども紹介します。			
到達目標	① 社会人として知っておくべき理科の知識と教養を身につける。 ② 身近なものごと・現象の理学的理解ができるようになる。 ③ 公務員試験「自然科学」分野の準備となる。			
授業内容 授業形態 ※	以下の内容で進める予定です。 （履修者の状況により適宜変更する可能性もあります。） 第1回 自然界のスケール 第2回 いろいろな星 第3回 太陽系の動き 第4回 星座 第5回 地球の形と運動 第6回 地球の内部 第7回 プレートテクトニクス 第8回 月 第9回 太陽系（1） 第10回 太陽系（2） 第11回 太陽系（3） 第12回 太陽 第13回 銀河系 第14回 星の一生と元素の生成 第15回 宇宙の歴史 講義を中心として、PCによるスライド・資料提示を行います。			

評価方法 ※	授業への取り組みの能動性（30%）、期末試験（70%）により総合的に評価する予定です。
評価基準	
テキスト	指定なし。 毎授業時に資料プリントを配布します。
注意事項	[予習] 次回のテーマについて、中学・高校の理科の教科書を読んできるとよいでしょう。（約60分） [復習] 分からなかったところや関心を持ったところについて調べておきましょう。毎回の授業のポイントが理解できているか、自分の言葉で書きくだとよいでしょう。（約180分）
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/SyllabusGaku/Syllabus.asp?cdga=2&nendo=2022&cddl=1530

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	千葉経済大学	学部・学科名 ※	経済学部・経済学科
科目名 ※	開発経済学Ⅱ	単位数 ※	2
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	火-4
キャンパス※		教室※	208
学修分野			
授業目的 ※	開発経済学は、発展途上国に対する望ましい経済発展の処方箋の提供を目的とした政策志向性の高い経済学の一分野である。取り扱われるテーマは、貧困、人口転換、少子高齢化、農業・工業化、貿易・海外直接投資、政府の役割、政府開発援助、アジア経済など多岐にわたる。 本講義では、開発経済学Ⅰに続き、国際協力、不平等、海外直接投資（FDI）、グローバリゼーション、アジア経済、海外送金と移民、主要な経済成長理論を学習する。なお、履修者が途上国の抱える現実的な課題を理解できるように、メディアで注目されるトピックもできる限り多く紹介する。 教員は、2012年～2017年（独）国際協力機構（JICA）の研究部門に勤務経歴あり。国際協力の実務経験に基づいて、日本を含むアジアを中心としたグローバル経済について専門的な知識と経験を交えた講義を展開する。 なお、この科目は卒業認定・学位授与の方針のうち、特に経済学の専門知識、思考力・判断力および主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度に資する科目である。		
到達目標	発展途上国が抱える様々な開発課題とその処方箋を理解するために必要な開発経済学の基礎的な知識を習得する。		
授業内容 授業形態 ※	第 1 回 ガイダンス（授業の目的・内容・教科書・評価方法など） 第 2 回 国際協力の歴史 第 3 回 経済成長と不平等 第 4 回 工業化政策と海外直接投資（FDI） 第 5 回 グローバリゼーションとアジア経済 第 6 回 海外送金と移民 第 7 回 新古典派経済成長理論（1）ソロー・モデル（基礎編） 第 8 回 新古典派経済成長理論（2）ソロー・モデル（上級編） 第 9 回 新古典派経済成長理論（3）内生的経済成長論 第 10 回 貧困の罠 第 11 回 中所得国の罠 第 12 回 制度と経済発展（1）戦略的補完性、複数均衡、経路依存性 第 13 回 制度と経済発展（2）政治制度と経済制度の補完性、クズネッツ曲線 第 14 回 産業集積と経済発展 第 15 回 社会関係資本と経済発展、幸福度と経済発展の関係		

評価方法 ※	中間試験（35%）、定期試験（35%）、課題提出状況（30%）により成績を評価する。試験や課題に対しては、授業内で全員にフィードバックする。 教室内での私語やイヤホン（ワイヤレス含む）の使用は厳禁とし、このルールに従うことができない履修者は平常点の減点対象とする。度重なる通告にも関わらず、改善が見られない場合は、定期試験の受験資格を与えない。
評価基準	
テキスト	渡辺利夫著 2010『開発経済学入門（第3版）』（東洋経済新報社） 戸堂康之著 2015『開発経済学入門』（新世社）
注意事項	開発経済学の学習には、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎的な知識が必要であるので、予習・復習時間を利用して、しっかりと学習すること。履修者には途上国を含むグローバルな経済の動きに関心をもつことを期待する。 開発経済学Ⅰ（前期）と開発経済学Ⅱ（後期）は、関連性が大変強いので可能ならば両方の講義を履修することが望ましい。ただし、扱うテーマは違うため、どちらか一方の履修も可能である。
授業シラバス	https://syllabus.cku.ac.jp/syllabusgaku/default.asp?cdga=1

※は必須記入事項

ちば産学官連携プラットフォーム 単位互換共通シラバス

大学名 ※	植草学園大学	学部・学科名 ※	発達教育学部	発達支援教育学科
科目名 ※	環境科学		単位数 ※	2単位
開講学期※	後期	曜日・時限 ※	火曜 5限	
キャンパス※	小倉キャンパス	教室※	講義室 1 5	
学修分野	教養教育科目（基礎科目）			
授業目的 ※	人間や社会に対する理解や生命の尊厳について深く認識し，高い道德心と倫理観をもって行動できる。			
到達目標	1. 地球温暖化やそれに伴う気候変動について理解できるようになる。 2. 地球の大気組成の特徴について理解できるようになる。 3. 地球の大気組成の時間変化やそれを司る素過程について地球環境問題を広い時空間スケールで理解できるようになる。			
授業内容 授業形態 ※	第1回 地球温暖化と気候変動 1：現在進行している地球温暖化、及びそれに付随する各種気候変動について学習する。（目標1） 第2回 地球温暖化と気候変動2：過去の地球温暖化、及びそれに付随する各種気候変動について学習する。（目標1） 第3回 地球の大気組成の特徴 1：現在の地球の大気組成、及びその特徴について学習する。（目標2） 第4回 地球の大気組成の特徴 2：太陽系内の岩石型惑星の大気組成と比較し、地球大気組成の特異性について学習する。（目標2） 第5回 大気組成と地表気温の関係 1：地表気温を記述するための簡単な理論について学習する。（目標2） 第6回 大気組成と地表温度の関係 2：温室効果について、その概要を学習する。（目標2） 第7回 気組成と地表温度の関係 3：温室効果について、その詳細を学習する。（目標2） 第8回 大気組成と地表温度の関係 4：地表温度の重要な制約要因の一つである太陽放射の時間変化について学習する。（目標3） 第9回 大気組成と地表温度の関係 5：地表温度および大気組成が時間変化していた可能性について数量的に学習する。（目標3）			

	第10回 炭素循環 1：大気二酸化炭素量の変動を考えるために必要となる炭素循環について、その素過程を学習する。（目標3） 第11回 炭素循環 2：炭素循環を数量的に検討する際の基礎となるボックスモデルの概念について学習する。（目標3） 第12回 炭素循環 3：炭素循環のボックスモデルの検討方法について学習する。（目標3） 第13回 炭素循環 4：二酸化炭素濃度の調整に重要なフィードバック作用を抽出し、それについて学習する。（目標3） 第14回 炭素循環 5：炭素循環を考えることで明らかになる、大気組成の時間変化パターンの実際について学習する。（目標3） 第15回 まとめ：1～14回の内容をまとめ、知見を整理する。レポート内容に関する質問やフィードバックも実施予定である。（目標1.2.3）
評価方法 ※	複数回のレポート課題（80 %）＋授業姿勢・態度（20 %）
評価基準	1. 地球温暖化やそれに伴う気候変動について理解し、適切に説明・解析できる。 2. 地球の大気組成の特徴について理解し、適切に説明・解析できる。 3. 地球の大気組成の時間変化やそれを司る素過程について地球環境問題を広い時空間スケールで理解し、適切に説明・解析できる。
テキスト	特定の教科書は用いない。必要な資料等を印刷する。
注意事項	授業は講義形式を中心に行う。ただし必要に応じて、特にレポート課題に対応した箇所に関しては演習形式で実施する。それに伴い、ノートPCを使用する回もあり得る（その場合には、事前に告知します）。 新型コロナウイルスをめぐる状況によっては、上記の授業計画や内容の一部が変更になる可能性がある。
授業シラバス	https://118.21.56.20/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx

※は必須記入事項